特教研 B-290

専門研究B

高等学校における発達障害等の特別な支援を必要とする生徒への指導・支援に関する研究

－授業を中心とした指導・支援の在り方－

（平成24年度～25年度）

研究成果報告書

平成26年3月

独立行政法人
国立特別支援教育総合研究所

はじめに

中学校から高等学校への進学率は98%を超えており、ほとんどの中学生は高等学校に進学している。小学校、中学校で特別支援教育を受けてきた子どもたちも高等学校に進学していることになる。本研究は、発達障害を含む特別な支援を必要とする生徒は、高等学校ではどのような学校生活を送っているのだろうか、どのような適応上の困難があるのだろうか、小・中学校で取り組まれている特別支援教育とは異なる仕組みが必要なのだろうかという課題からスタートしている。

高等学校は生徒の興味や関心、能力、適性などの実態が多様化してきており、高い学力をもつ生徒から、小・中学校段階の基礎・基本の学習内容の定着が十分でない生徒も在学しているなど学力差の問題も大きい。また、不登校や中途退学の問題は社会問題とも関連してくる。

平成 25 年度入学生から新しい高等学校学習指導要領が年次進行で全面実施された。教育課程編成時の配慮事項等には、学習の遅れがちな生徒や障害のある生徒などについては、生徒の実態に応じ、指導内容や指導方法を工夫することが明記されているとともに、義務教育段階の学習内容の確実な定着を図るための学習機会、すなわち学び直しの機会を設けることの促進などが挙げられている。

本研究は、発達障害等のある生徒の適切な教育の場についての研究ではなく、発達障害も含めた特別な支援を必要とする生徒はどこの高等学校にも在学していることが想定されることから、高等学校における発達障害等の特別な支援を必要とする生徒の指導・支援をどのように考えればよいかについて検討した研究である。

本研究では、高等学校における特別支援教育体制整備の充実強化と指導・支援の充実方策の内容を中心に、高等学校の現場のニーズに応じた指導・支援の在り方について、研究協力校における実践を通して、ポイントとなることを検討しまとめている。高等学校は課程や学科等により支援の必要な生徒の状況も異なること等から、義務教育段階のように一律には考えにくい面もあるが、体制整備と指導・支援の在り方についての大切にすべきポイントは、共通のものとして整理できたと思っている。本報告書が少しでも高等学校における特別支援教育の推進に役立てば幸いである。

研究代表者　企画部　総括研究員　笹森 洋樹

目　次

はじめに

Ⅰ．研究の概要---------- 1
１．問題
２．目的
３．方法

Ⅱ．高校生をとりまく状況と高等学校教育の現状と課題---------- 4
１．高等学校の現状
２．多様化する生徒の状態に応じた教育制度
３．学力の問題、学習意欲と学び直し
４．高等学校学習指導要領の改訂
５．問題行動等生徒指導上の諸問題
６．高等学校における合理的配慮と基礎的環境整備の考え方

Ⅲ．国の動き、教育委員会における取組---------- 20
１．中央教育審議会高等学校教育部会の審議の経過について
２．高等学校における特別支援教育に関する支援事業等
３．高等学校における特別支援教育の推進に関する実態調査（教育委員会）

Ⅳ．研究協力校における授業を中心とした支援の実際---------- 51
１．教員アンケートの結果から
２．研究協力校の実践
愛知県立高浜高等学校（全日制／普通科）
栃木県立益子芳星高等学校（全日制／普通科）
神奈川県立綾瀬西高等学校（全日制／普通科）
岩手県立遠野緑峰高等学校（全日制／専門学科）
北海道新十津川農業高等学校（全日制／専門学科）
山形県立霞城学園高等学校（定時制・通信制／普通科）

Ⅴ．研究協議会から---------- 118

Ⅵ．高等学校における特別な支援が必要な生徒への指導・支援の在り方--- 126
１．実態把握
２．組織的な対応・校内支援体制
３．教育課程・指導形態

４．指導・支援
５．学習評価
６．中高連携
７．キャリア教育・進路指導

Ⅶ．総合考察---------- 149
１．総合考察
２．今後の課題

Ⅷ．引用・参考文献---------- 156

Ⅸ．資料---------- 157
１．発達障害のある子どもの思春期における状態像の把握
２．高等学校における特別支援教育の推進に関する実態調査　調査用紙

Ⅹ．研究体制---------- 188

おわりに